



Dominion LX

クイック ステップ ガイド

Dominion LX™ をご購入いただきありがとうございます。LX は、拡大する SMB ビジネス向けの業界最高品質でありながら最も手頃なデジタル KVM (キーボード、ビデオ、マウス) スイッチです。

LX のすべての側面に関する追加情報については、製品に付属している、LX からアクセス可能なオンライン ヘルプ、または PDF 形式の LX ヘルプを参照してください。PDF 形式のヘルプは、Raritan の Web サイトの「Firmware and Documentation」セクション (<http://www.raritan.com/support/firmware-and-documentation/>) からダウンロードできます。

常に最新の LX のマニュアルを確実に使用できるように、まずオンライン ヘルプまたは PDF 版のヘルプを使用することをお勧めします。ヘルプはすべて、弊社 Web サイトから入手できます。

手順 1: KVM ターゲット サーバの設定

最適なパフォーマンスを確保するために、LX をインストールする前に、すべての KVM ターゲット サーバを設定します。この設定は、KVM ターゲット サーバのみに適用されます。LX のリモートアクセスに使用されるクライアント ワークステーション (リモート PC) には適用されません。

デスクトップの背景

帯域幅効率とビデオ パフォーマンスを最適化するために、できるだけ単色の背景を使用してください。写真や複雑な階調を持つ背景を使用すると、パフォーマンスが低下する場合があります。

サポートされている画面解像度

各ターゲット サーバの画面解像度とリフレッシュ レートが LX でサポートされているかどうか、および、映像信号がノンインタレース方式であるかどうかを確認してください。

画面解像度とケーブル長は、マウスを同期させるうえで重要な要素です。LX オンライン ヘルプまたはユーザ ガイドについては、「**ターゲット サーバとの接続距離および画面解像度**」を参照してください。

LX でサポートされている画面解像度は次のとおりです。

解像度	
640x350, 70Hz	1024x768, 85Hz
640x350, 85Hz	1024x768, 75Hz
640x400, 56Hz	1024x768, 90Hz
640x400, 84Hz	1024x768, 100Hz
640x400, 85Hz	1152x864, 60Hz

解像度

640x480, 60Hz	1152x864, 70Hz
640x480, 66.6Hz	1152x864, 75Hz
640x480, 72Hz	1152x864, 85Hz
640x480, 75Hz	1152x870, 75.1Hz
640x480, 85Hz	1152x900, 66Hz
720x400, 70Hz	1152x900, 76Hz
720x400, 84Hz	1280x720, 60Hz
720x400, 85Hz	1280x960, 60Hz
800x600, 56Hz	1280x960, 85Hz
800x600, 60Hz	1280x1024, 60Hz
800x600, 70Hz	1280x1024, 75Hz
800x600, 72Hz	1280x1024, 85Hz
800x600, 75Hz	1360x768, 60Hz
800x600, 85Hz	1366x768, 60Hz
800x600, 90Hz	1368x768, 60Hz
800x600, 100Hz	1400x1050, 60Hz
832x624, 75.1Hz	1440x900, 60Hz
1024x768, 60Hz	1600 x 1200, 60Hz
1024x768, 70Hz	1680x1050, 60Hz
1024x768, 72Hz	1920x1080, 60Hz

マウスの設定

LX は、ずれないマウス モード™、インテリジェント マウス モード、および標準マウス モードで動作します。

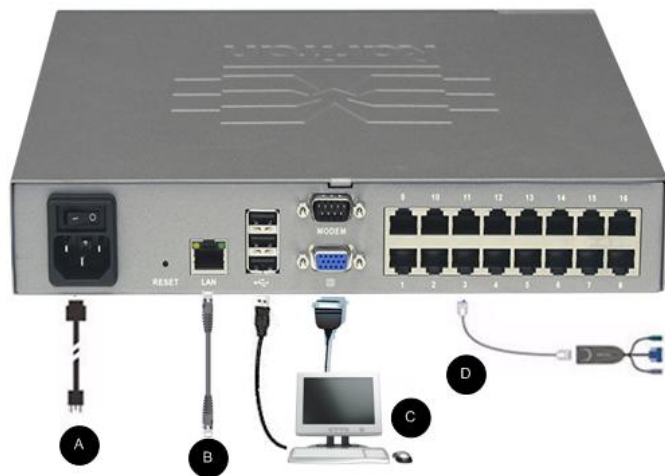
ずれないマウス モードの場合は、マウス パラメータを変更する必要はありません。ただし、D2CIM-VUSB または D2CIM-DVUSB が必要です。標準マウス モードとインテリジェント マウス モードの場合、マウス パラメータを特定の値に設定する必要があります。

さまざまなオペレーティング システムでマウスを設定する方法の詳細については、LX オンライン ヘルプまたはユーザ ガイドの「インストールと設定」を参照してください。

手順 2: ネットワーク ファイアウォールの設定

LX へのリモート アクセスを有効にするには、ネットワークおよびファイアウォールにおいて、TCP ポート 5000 の通信が許可されている必要があります。あるいは、別の TCP ポートを使用するように LX を設定し、その TCP ポートでの通信を許可します。Web ブラウザで LX にアクセスできるようにするには、ファイアウォールで TCP ポート 443 (標準 HTTPS) へのアクセスを許可する必要があります。TCP ポート 80 (標準 HTTP) にアクセスすると、HTTP 要求が自動的に HTTPS にリダイレクトされます。

手順 3: 装置の接続



A. AC 電源

▶ 電源を接続するには、以下の手順に従います。

- 付属の AC 電源コードを LX と AC 電源コンセントに接続します。

B. ネットワーク ポート

▶ ネットワークを接続するには、以下の手順に従います。

- 標準 Ethernet ケーブル (付属品) をネットワーク ポートから Ethernet スイッチ、ハブ、またはルータに接続します。

C. ローカル アクセス ポート (ローカル PC)

▶ ローカル ポートに接続するには、以下の手順に従います。

- マルチシンク VGA モニタ、マウス、キーボードを各ローカル ユーザ ポートに接続します。キーボードとマウスは、USB 接続のものを使用します。接続ポートは、LX の背面パネルにあります。

接続	説明
モニタ	標準マルチシンク VGA モニタを HD15 (メス) ビデオ ポートに接続します。
キーボード	標準 USB キーボードを USB タイプ A (メス) ポートのいずれかに接続します。
マウス	標準 USB マウスを USB タイプ A (メス) ポートのいずれかに接続します。

D. ターゲット サーバ ポート

▶ ターゲット サーバを LX に接続するには、以下の手順に従います。

- 適切なコンピュータ インタフェース モジュール (CIM) を使用します。
- CIM の UTP (Cat5/5e/6) ケーブルをターゲット サーバのビデオ ポートに接続します。ターゲット サーバのビデオが、サポートされている解像度と垂直走査周波数に設定されていることを確認します。Sun サーバの場合は、ターゲット サーバのビデオ カードがコンポジット Sync ではなく標準 VGA (H-and-V Sync) を出力するように設定されていることを確認してください。
- CIM のキーボード/マウス コネクタを、ターゲット サーバの該当するポートに接続します。標準ストレート UTP (Cat5/5e/6) ケーブルを使って、CIM を LX デバイスの背面の使用可能なサーバ ポートに接続します。

手順 4: LX の設定

LX デバイスの電源を初めてオンにしたときは、LX ローカル コンソールで以下の操作を行う必要があります。

- デフォルト パスワードの変更
- IP アドレスの割り当て
- KVM ターゲット サーバの命名

Web ブラウザを使用して LX をリモートで設定できます。ただし、リモート クライアントに適切なバージョンの Java Runtime Environment (JRE) がインストールされている必要があります。

必要に応じて、初期設定中にユーザ グループおよびユーザを追加できます。詳細については、LX ヘルプの「**ユーザ管理**」を参照してください。

デフォルト パスワードの変更

▶ デフォルトのパスワードを変更するには、以下の手順に従います。

1. 本体が起動したら、デフォルトのユーザ名 (admin) とパスワード (raritan) を入力します。[ログイン] をクリックします。
2. 古いパスワード (raritan) を入力し、新しいパスワードを入力した後、もう一度新しいパスワードを入力します。パスワードには、最大 64 文字の英数字と特殊文字を使用できます。[適用] をクリックします。[確認] ページで [OK] をクリックします。

IP アドレスの割り当て

▶ IP アドレスを割り当てるには、以下の手順に従います。

1. [Device Settings] (デバイス設定) の [Network] (ネットワーク) を選択します。[ネットワーク設定] (Network Settings) ページが開きます。
2. LX デバイスにわかりやすいデバイス名を指定します。最大 32 文字の英数字と有効な特殊文字を組み合わせて使用できます。スペースは使用できません。
3. [IPv4] (IPv4) セクションで、IPv4 固有の適切なネットワーク設定を入力するか、選択します。
 - a. 必要に応じて IP アドレスを入力します。デフォルトの IP アドレスは「192.168.0.192」です。
 - b. サブネット マスクを入力します。デフォルトのサブネット マスクは「255.255.255.0」です。
 - c. [IP Auto Configuration] (IP 自動設定) ドロップダウンから [None] (なし) を選択した場合は、デフォルトのゲートウェイを入力します。
 - d. [IP Auto Configuration] (IP 自動設定) ドロップダウンから [DHCP] (DHCP) を選択した場合は、優先ホスト名を入力します。
 - e. [IP Auto Configuration] (IP 自動設定) を選択します。次のオプションを使用できます。
 - [None] (なし) (静的 IP) - このオプションを選択した場合は、ネットワーク パラメータを手動で指定する必要があります。LX はインフラストラクチャ デバイスであり、IP アドレスは変更されないため、このオプションが推奨されます。
 - [DHCP] (DHCP) - DHCP サーバから一意の IP アドレスとその他のパラメータを取得するために、ネットワークに接続しているコンピュータ (クライアント) によって Dynamic Host Configuration Protocol が使用されます。

このオプションを選択した場合、ネットワーク パラメータは DHCP サーバによって割り当てられます。DHCP を使用する場合は、[Preferred host name] (優先ホスト名) を入力します (DHCP のみ)。最大 63 文字まで使用できます。

4. IPv6 を使用する場合は、[IPv6] セクションで、適切な IPv6 固有のネットワーク設定を入力するか、選択します。
 - a. セクション内のフィールドを有効にするには、[IPv6] チェックボックスをオンにします。
 - b. [Global/Unique IP Address] (グローバル/一意の IP アドレス) を入力します。これは、LX に割り当てられる IP アドレスです。
 - c. [Prefix Length] (固定長) を入力します。これは、IPv6 アドレスで使用されるビット数です。
 - d. [Gateway IP Address] (ゲートウェイ IP アドレス) を入力します。
 - e. [Link-Local IP Address] (リンク - ローカル IP アドレス)。このアドレスは、自動的にデバイスに割り当てられます。これは、近隣探索で、またはルータが存在しない場合に使用されます。[Read-Only] (読み取り専用)
 - f. [Zone ID]。これは、アドレスが関連付けられているデバイスを識別します。[Read-Only] (読み取り専用)
 - g. [IP Auto Configuration] (IP 自動設定) を選択します。次のオプションを使用できます。
 - [None] (設定しない) - 自動 IP 設定を使用せず、IP アドレスを自分で設定する場合は、このオプションを選択します (静的 IP)。推奨されるデフォルトのオプションです。

[IP auto configuration] (IP 自動設定) で [None] (設定しない) を選択すると、[Network Basic Settings] (ネットワーク基本設定) フィールド ([Global/Unique IP Address] (グローバル/一意の IP アドレス)、[Prefix Length] (固定長)、[Gateway IP Address] (ゲートウェイ IP アドレス)) が有効になり、IP アドレスを手動で設定できるようになります。
 - [Router Discovery] (ルータ検出) - このオプションを使用して、直接接続されるサブネットにのみ適用される [Link Local] (リンク ローカル) を超える [Global] (グローバル) または [Unique Local] (一意ローカル) を意味する IPv6 アドレスを自動的に割り当てます。
5. [DHCP] (DHCP) が選択されており、[Obtain DNS Server Address] (DNS サーバ アドレスを取得する) が有効になっている場合は、[Obtain DNS Server Address Automatically] (DNS サーバ アドレスを自動的に取得する) を選択します。[Obtain DNS Server Address Automatically] (DNS サーバ アドレスを自動的に取得する) を選択した場合は、DHCP サーバから得られた DNS 情報が使用されます。
6. [Use the Following DNS Server Addresses] (次の DNS サーバ アドレスを使用する) が選択されている場合は、[DHCP] (DHCP) が選択されているかどうかにかかわらず、このセクションに入力したアドレスを使用して DNS サーバに接続されます。

[Use the Following DNS Server Addresses] (次の DNS サーバ アドレスを使用する) が選択されている場合は、以下の情報を入力します。これらのアドレスは、停電のためにプライマリ DNS サーバ接続が失われた場合に使用されるプライマリおよびセカンダリの DNS アドレスです。

- a. プライマリ DNS サーバ IP アドレス
- b. セカンダリ DNS サーバ IP アドレス

7. 完了したら [OK] をクリックします。

日付/時刻の設定 (オプション)

▶ 日付と時刻を設定するには、以下の手順に従います。

1. [デバイス設定] の [日付/時刻] を選択します。[日付/時刻の設定] ページが開きます。
2. [タイム ゾーン] ドロップダウン リストから適切なタイム ゾーンを選択します。
3. 夏時間用の調整を行うには、[夏時間用の調整] チェックボックスをオンにします。
4. 日付と時刻の設定で用いる方法を選択します。
 - [ユーザによる時刻定義]: 日付と時刻を手動で入力するには、このオプションを選択します。[ユーザによる時刻定義] オプションを選択した場合は、日付と時刻を入力します。時刻は、hh:mm の形式を使用します (24 時間制で入力します)。
 - [NTP サーバと同期]: 日付と時刻をネットワーク タイム プロトコル (NTP) サーバと同期するには、このオプションを選択します。
5. [NTP サーバと同期] オプションを選択した場合は、以下の手順に従います。
 - a. プライマリ タイム サーバの IP アドレスを入力します。
 - b. セカンダリ タイム サーバの IP アドレスを入力します。(オプション)
6. [OK] をクリックします。

ターゲット サーバの命名

▶ ターゲット サーバに名前を付けるには、以下の手順に従います。

1. LX ローカル コンソールを使用して、[デバイス設定] の [ポート設定] を選択し、名前を付けるターゲット サーバの [ポート名] をクリックします。
2. サーバの名前を入力します。名前には最大 32 文字の英数字と特殊文字を使用できます。[OK] をクリックします。

手順 5: LX リモート コンソールの起動

▶ LX リモート コンソールを起動するには、以下の手順に従います。

1. LX にネットワークを介して接続でき、Microsoft .NET® または Java Runtime Environment® (JRE) がインストールされている、

任意のコンピュータからログインします (JRE® は *Java の Web サイト* <http://java.sun.com/> から入手できます)。

2. サポートされている Web ブラウザ (Internet Explorer® や Firefox® など) を起動します。
3. URL として、「<http://IP-ADDRESS/>」または .NET の場合には「<http://IP-ADDRESS/aks/>」と入力します。IP-ADDRESS は、LX に割り当てられた IP アドレスです。また、HTTPS を使用することや、管理者によって割り当てられた LX の DNS 名を使用することもできます (DNS サーバが設定されている場合)。IP アドレスをそのまま入力してもかまいません (LX では常に IP アドレスが HTTP から HTTPS にリダイレクトされます)。
4. ユーザ名とパスワードを入力します。[ログイン] をクリックします。

リモートからのターゲット サーバのアクセスと制御

LX の [ポート アクセス] ページには、すべての LX ポート、接続中のターゲット サーバ、ターゲット サーバの状態およびその可用性が表示されます。

ターゲット サーバへのアクセス

▶ ターゲット サーバにアクセスするには、以下の手順に従います。

1. アクセスしたいターゲット サーバのポート名をクリックします。[ポート アクション] メニューが開きます。
2. [ポート アクション] メニューの [接続] をクリックします。[KVM] ウィンドウが開き、ターゲットへの接続が示されます。

ターゲット サーバの切り替え

▶ KVM ターゲット サーバを切り替えるには、以下の手順に従います。

1. ターゲット サーバを使用しているときに、LX の [ポート アクセス] ページを開きます。
2. アクセスするターゲットの [ポート名] をクリックします。[ポート アクション] メニューが表示されます。
3. [ポート アクション] メニューの [切り替え元] を選択します。選択した新しいターゲット サーバが表示されます。

ターゲット サーバの切断

▶ ターゲット サーバを切断するには、以下の手順に従います。

- 切断するターゲットのポート名をクリックします。[ポート アクション] メニューが表示されたら、[切断] をクリックします。

その他の情報

LX™ および Raritan 製品ラインナップ全体の詳細については、Raritan の Web サイト (www.raritan.com) を参照してください。技術的な問題については、Raritan のテクニカル サポート窓口にお問い合わせください。世界各地のテクニカル サポート窓口について

ては、Raritan の Web サイトの「Support」セクションにある
「Contact Support」ページを参照してください。

Raritan の製品では、GPL および LGPL の下でライセンスされているコードを使用しています。お客様は、
オープン ソース コードのコピーを要求できます。詳細については、Raritan の Web サイトにある「Open
Source Software Statement」
(<http://www.raritan.com/about/legal-statements/open-source-software-statement/>) を参照し
てください。